縦横無尽

石川県議会議員 横山隆也 活動報告 **vol.8**

横山隆也通信

よこやま たかや

地域のために東奔西走。

令和4年6月 一般質問

身近な事柄から
長年の課題まで
解決に向けて全身全霊！

ごあいさつ

謹啓

向春の候、皆さまにはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃から私の議会活動に対し、深いご理解とご協力に心より御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症のオミクロン株の流行が顕著でした。しかし、死亡率と病床使用率の低下で、政府や自治体は「行動制限」に踏み込まず、「ウイズコロナ」の流れが加速したことで、コロナ禍は新たな段階に入ったと言えそうです。

ウイズコロナ時代では、感染拡大という「痛み」は伴いますが、行動制限がないことで経済が回り、日常生活への影響は少なくなったのではないでしょうか。

ただ、飲食店や観光業だけでなく、地域の産業全体が疲弊しているのは確かです。県には、経営をしっかり下支えする支援をお願いしたいと考えています。

また、白山市と岐阜県白川村を結ぶ「白山白川郷ホワイトロード」は、昨年8月4日に発生した大雨で白山市内の道路の一部が土砂で押し流され、通行止めとなってしまいました。仮設道路の完成を受けて、昨年11月11日から中宮温泉など地元関係者に限って通行が再開されましたが、観光客ら一般の車両は今も通ることができません。しかし、今年のゴールデンウイーク前には、一般車両の片側交互通行ができる見通しが示されており、岐阜県とつながる唯一の観光道路であることから、早期再開や利用促進に取り組んでまいりたいと思います。

最後になりますが、今後とも皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

謹白

石川県議会議員　横山隆也

令和5年2月吉日

未来に向かって前進

最近は、新型コロナウイルス感染症や物価の高騰など、とかく後ろ向きな話題が多いと言えます。そんな時こそ議会の力が必要です。「感染症」「経済」「福祉」「少子化」「災害」の5つのテーマについて、必要な施策が実現するよう迅速に行動してまいります。一歩一歩、確実に前進することで、明るい未来を切り開き、誰もが豊かな人生を送れる社会の実現を目指します。

感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策は経営支援も同時に

「ウイズコロナ時代」の到来により、感染症対策は新たなフェーズに入っています。医療提供・検査体制の確保は、感染拡大の防止には欠かせませんので、万全の体制を維持していきます。その上で、経済の停滞を招かぬよう、中小企業を中心に十分な経営支援を実施していきます。

医療提供・検査態勢を万全に

十分な経営支援の実施を

経済対策

原油価格・物価高騰対策 農林漁業者に手厚い支援

日本のインフレは日々、深刻さを増しています。原油価格は高止まりしたままであり、食品などの生活必需品も値上がりし、物価高が続いています。特に、農林漁業者への手厚い支援が必要であり、負担を少しでも軽減することが肝要です。

事業者の負担を軽減

物価上昇の抑制を

福祉対策

誰もが健康で安心して暮らせる社会づくりを

誰一人取り残さない、健康で安心して暮らせる社会づくりを目指します。健康は安心の基盤となります。健康寿命を支える生活コミュニティを形成し、子ども、現役、高齢までの全世代を通した社会保障を実現します。

健康寿命を支えるコミュニティ

全世帯型社会保障を実現

少子化対策

子どもの成長を見守る制度の充実を

少子高齢化が加速度的に進んでおり、結婚から妊娠・出産・子育てまで一貫したサポートが必要です。婚活による出会い、安心して出産できる環境、乳幼児の医療費助成制度の拡充などに取り組んでまいります。

安心して出産できる環境を

乳幼児の医療費助成制度拡充

災害対策

白山市内各地の復旧が急務に

昨年8月の記録的な豪雨で県内の様々な場所で山腹崩壊、河川の氾濫による家屋の浸水、断水被害が発生しました。いまだ災害の爪跡が残り、完全復旧とは言いがたく、抜本的かつ二度とこのような事態が起こらないような対策が急がれるところです。

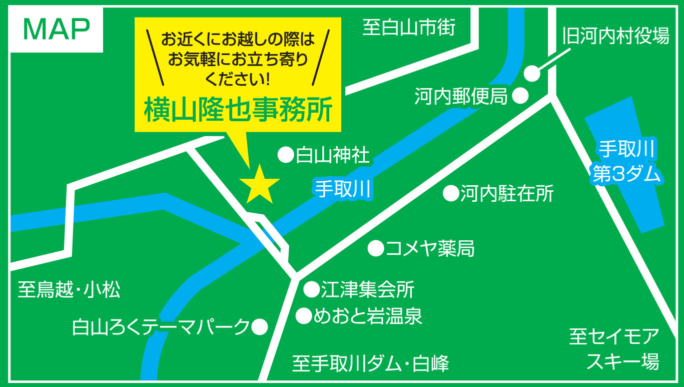
大雨で断水被害

抜本的な対策を

地元や地域の「困りごと」を解決します！

発行所　**横山隆也事務所**
〒920-2373 石川県白山市河合町甲21番地
TEL.076-254-2820 FAX.076-254-2821
AM10:00～PM4:00（土日祝はお休みです）
公式ホームページ http://www.yokoyamatakaya.com/
横山隆也 LINE公式アカウント 登録はこちらから
Facebook やってます！

【縦横無尽（じゅうおう・むじん）】 何事にもとらわれず、あらゆる方面で物事を思う存分にすること。また、そのさま。



さまざまなところに
出向いていろんな方と
出会いました!

飛躍

ふるさとの発展へ
情熱を注ぐ。

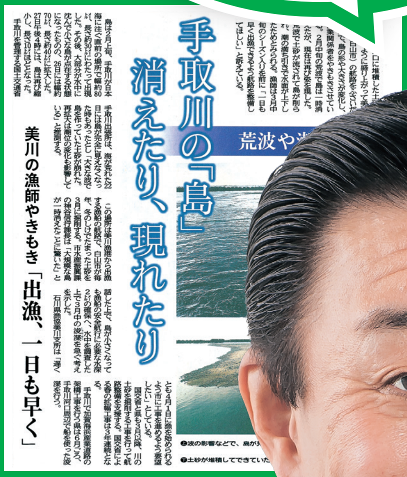
生活の基盤を整える。

防災

災害から
人命と財産を守る。

教育

次代を担う子供たちを
育てる。



2月中旬の荒波で島は一時消えたが、現在は再び姿を現した。荒波で土砂が流されて島が削られ、潮の満ち引きで水面が上下したためとみられる。漁師は3月中旬のシーズン入りを前に「一日も早く出漁できるよう航路を整備してほしい」と訴えている。

手取川の「島」消えたり、現れたり

荒波や

美川の漁師やきもき「出漁、一日も早く」

島は2月上旬、手取川が日本海に注ぐ直前の場所で幅約80㍍、長さ約30㍍にわたって出現した。その後、大部分が水中に沈んで小さな島が点在する状態になったものの、26日には幅約70㍍、長さ約40㍍に拡大した。27日午後4時には、島は再び縮小し、長さ10㍍ほどとなった。

手取川を管理する国土交通省手取川出張所は、海が荒れた22日には島が完全に見えなくなった時もあったとし「大きな波で島を作っていた土砂が崩れた。再拡大は潮位の変化も影響している」と推測する。

この場所は美川漁港から出漁する漁船の航路で、白山市が毎年、冬のしけでたまった土砂を3月に掘削する。市水産振興課の神谷信行課長は「大規模な島が一時消えたことに驚いた」と話した上で、島が小さくなっても漁船の安全航行に必要な水深2㍍の確保へ、水中を調査した上で3月中の浚渫を急ぐ考えを示した。

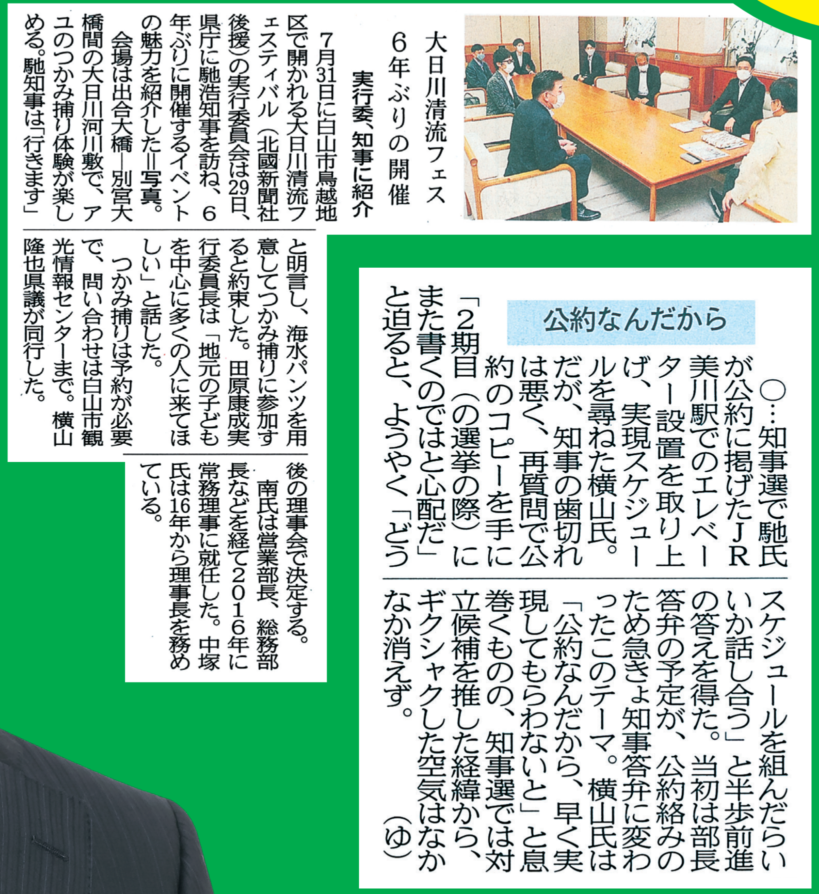
石川県漁協美川支所は「遅くとも4月1日に漁を始められるよう市に工事を進めるよう要望したい」としている。

国交省と県も3月以降、川の土砂を掘削する工事を行って航路整備を支援する。国交省による春の拡幅工事は3年連続となる。

手取川で加賀海浜産業道路の架橋工事を行う県は6月ごろ、手取川河口周辺で船を使った浚渫を行う。

㊤波の影響などで、島が

㊦土砂が堆積してできていた



大日川清流フェス 6年ぶりの開催

実行委、知事に紹介

7月31日に白山市鳥越地区で開かれる大日川清流フェスティバル（北國新聞社後援）の実行委員会は29日、県庁に馳浩知事を訪ね、6年ぶりに開催するイベントの魅力を紹介した＝写真。

会場は出合大橋―別宮大橋間の大日川河川敷で、アユのつかみ捕り体験が楽しめる。馳知事は「行きます」と明言し、海水パンツを用意してつかみ捕りに参加すると約束した。田原康成実行委員長は「地元の子どもを中心に多くの人に来てほしい」と話した。

つかみ捕りは予約が必要で、問い合わせは白山市観光情報センターまで。横山隆也県議が同行した。

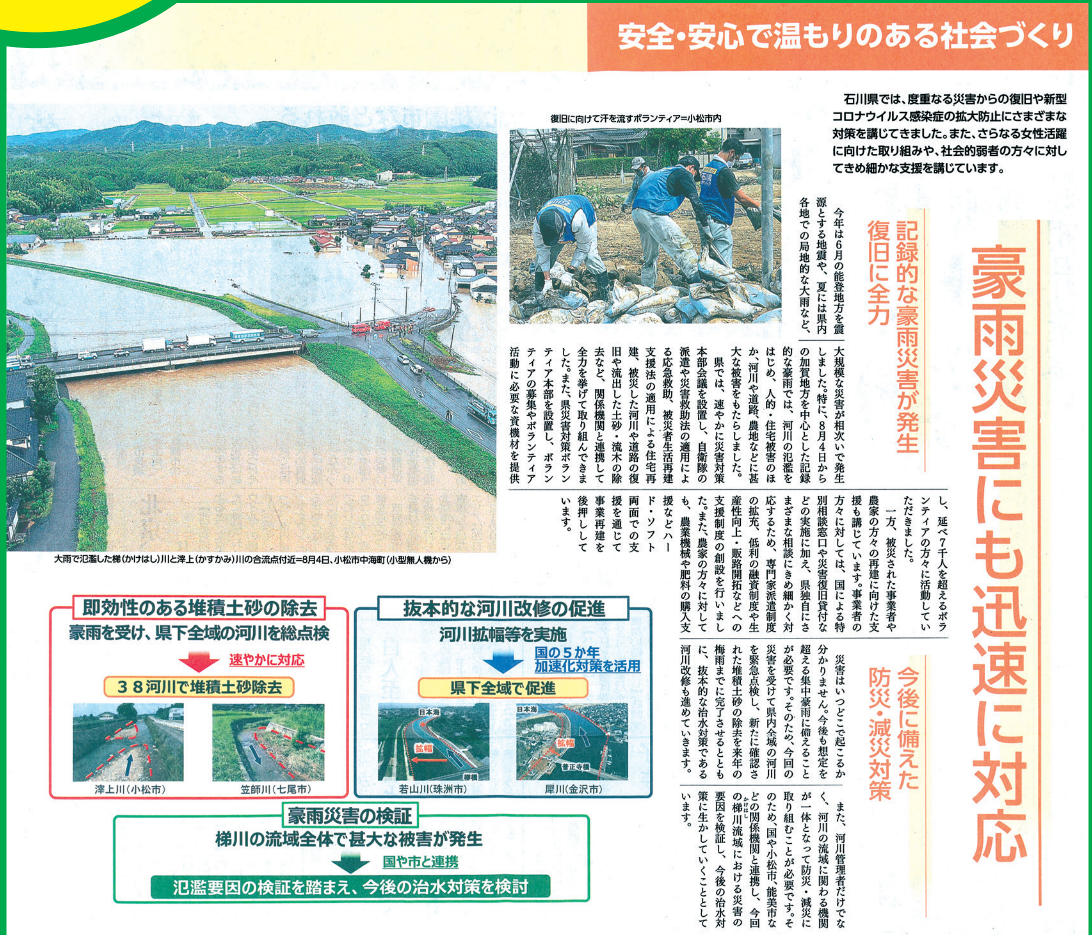
後の理事会で決定する。

南氏は営業部長、総務部長などを経て2016年に常務理事に就任した。中塚氏は16年から理事長を務めている。

公約なんだから

○…知事選で馳氏が公約に掲げたJR美川駅でのエレベーター設置を取り上げ、実現スケジュールを尋ねた横山氏。だが、知事の歯切れは悪く、再質問で公約のコピーを手に「2期目（の選挙の際）にまた書くのではと心配だ」と迫ると、ようやく「どうスケジュールを組んだらいいか話し合う」と半歩前進の答えを得た。当初は部長答弁の予定が、公約絡みのため急きょ知事答弁に変わったこのテーマ。横山氏は「公約なんだから、早く実現してもらわないと」と息巻くものの、知事選では対立候補を推した経緯から、ギクシャクした空気はなかなか消えず。（ゆ）

地域の皆さんの声を県政に届けるのが私の役割です。中でも、馳浩県知事との円滑な連携は欠かせないと考えており、良好な関係を築いていきます。



安全・安心で温もりのある社会づくり

石川県では、度重なる災害からの復旧や新型コロナウイルス感染症の拡大防止にさまざまな対策を講じてきました。また、さらなる女性活躍に向けた取り組みや、社会的弱者の方々に対してきめ細かな支援を講じています。

豪雨災害にも迅速に対応

記録的な豪雨災害が発生 復旧に全力

今年は6月の能登地方を震源とする地震や、夏には県内各地での局地的な大雨など、大規模な災害が相次いで発生しました。特に、8月4日からの加賀地方を中心とした記録的な豪雨では、河川の氾濫をはじめ、人的・住宅被害のほか、河川や道路、農地などに甚大な被害をもたらしました。

県では、速やかに災害対策本部会議を設置し、自衛隊の派遣や災害救助法の適用による応急救助、被災者生活再建支援法の適用による住宅再建、被災した河川や道路の復旧や流出した土砂・流木の除去など、関係機関と連携して全力を挙げて取り組んできました。また、県災害対策ボランティア本部を設置し、ボランティアの募集やボランティア活動に必要な資機材を提供し、延べ7千人を超えるボランティアの方々に活動していただきました。

一方、被災された事業者や農家の方々の再建に向けた支援も講じています。事業者の方々に対しては、国による特別相談窓口や災害復旧貸付などの実施に加え、県独自にさまざまな相談にきめ細かく対応するため、専門家派遣制度の拡充、低利の融資制度や生産性向上・販路開拓などへの支援制度の創設を行いました。また、農家の方々に対しても、農業機械や肥料の購入支援などハード・ソフト両面での支援を通じて事業再建を後押ししています。

今後に備えた防災・減災対策

災害はいつどこで起こるか分かりません。今後も想定を超える集中豪雨に備えることが必要です。そのため、今回の災害を受けて県内全域の河川を緊急点検し、新たに確認された堆積土砂の除去を来年の梅雨までに完了させるとともに、抜本的な治水対策である河川改修も進めていきます。

また、河川管理者だけでなく、河川の流域に関わる機関が一体となって防災・減災に取り組むことが必要です。そのため、国や小松市、能美市などの関係機関と連携し、今回の梯川流域における災害の要因を検証し、今後の治水対策に生かしていくこととしています。

復旧に向けて汗を流すボランティア＝小松市内

大雨で氾濫した梯（かけはし）川と滓上（かすかみ）川の合流点付近＝8月4日、小松市中海町（小型無人機から）

即効性のある堆積土砂の除去

豪雨を受け、県下全域の河川を総点検

速やかに対応

３８河川で堆積土砂除去

滓上川（小松市）　笠師川（七尾市）

抜本的な河川改修の促進

河川拡幅等を実施

国の５か年加速化対策を活用

県下全域で促進

若山川（珠洲市）　犀川（金沢市）

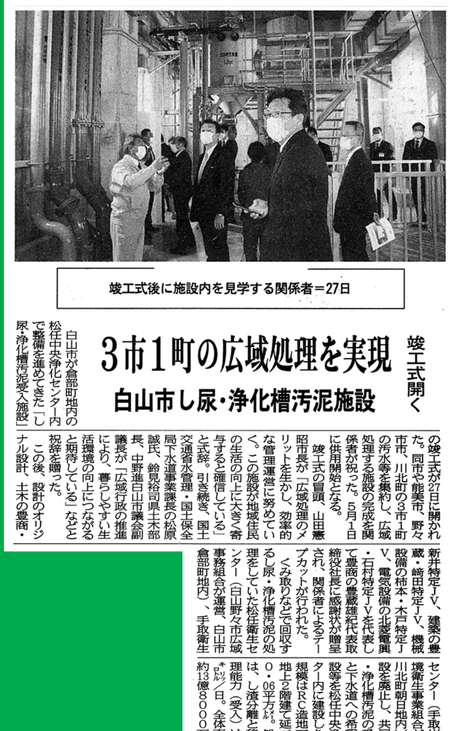
豪雨災害の検証

梯川の流域全体で甚大な被害が発生

国や市と連携

氾濫要因の検証を踏まえ、今後の治水対策を検討

近年、過去に例を見ない災害が発生することが多くなり、安心安全な社会の実現には、これまで以上のインフラ整備が必要となっています。そして、効率的なインフラ整備を進めるには、広域連携が重要なカギを握っており、普段からの交流がとても大切です。ソフト面とハード面がそろうことでしか、スムーズな街づくりは実現できません。地域の皆さんのため、少しでもよりよい街に進化していくように汗をかいていきます。



竣工式後に施設内を見学する関係者＝27日

竣工式開く

3市1町の広域処理を実現

白山市し尿・浄化槽汚泥施設

白山市が倉部町地内の松任中央浄化センター内で整備を進めてきた「し尿・浄化槽汚泥受入施設」の竣工式が27日に開かれた。同市や能美市、野々市市、川北町の3市1町の汚水等を集約し、広域処理する施設の完成を関係者が祝った。5月1日に供用開始となる。

竣工式の冒頭、山田憲昭市長が「広域処理のメリットを生かし、効率的な管理運営に努めていく。この施設が地域住民の生活の向上に大きく寄与すると確信している」と式辞。引き続き、国土交通省水管理・国土保全局下水道事業課長の松原誠氏、鈴見裕司県土木部長、中野進白山市議会副議長が「広域行政の推進により、暮らしやすい生活環境の向上につながると期待している」などと祝辞を贈った。

この後、設計のオリジナル設計、土木の豊商・新井特定JV、建築の豊蔵・﨑田特定JV、機械設備の柿本・木戸特定JV、電気設備の北菱電興・石村特定JVを代表して豊商の豊蔵雄紀代表取締役社長に感謝状が贈呈され、関係者によるテープカットが行われた。

くみ取りなどで回収するし尿・浄化槽汚泥の処理をしていた松任衛生センター（白山野々市広域事務組合が運営、白山市倉部町地内）、手取衛生センター（手取川流域環境衛生事業組合が運営、川北町朝日地内）の両施設を廃止し、共同のし尿・浄化槽汚泥の受入施設と下水道への希釈投入施設等を松任中央浄化センター内に建設した。施設規模はRC造地下1階・地上2階建て延べ1270・06平方㍍。処理方式は、し渣分離と移送で処理能力（受入）は47・3㌔㍑/日。全体事業費は約13億8000万円。

いつでも、どこでも。足を運んで確かめ、交流します。

交流

国内外のネットワークを
広げる。

福祉・活性

生き生きとした人生を
実現する。

コロナ禍においても、私は歩みを止めません。全国の都市を訪れ、交流の輪を広げています。そこで見聞きした事柄は、私の血となり、肉となって政策に反映されていきます。

その他の活動写真はこちらからご覧いただけます!

横山隆也 LINE 公式アカウント
右の QR コードからアクセスできます

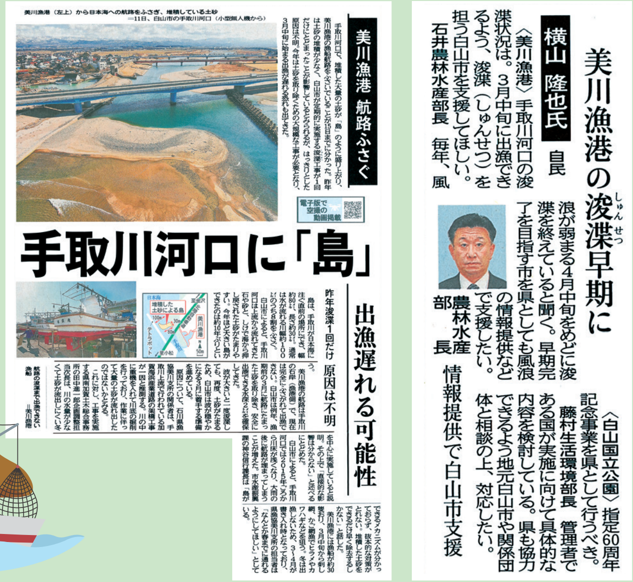
横山たかや事務所 Facebook
右の QR コードからアクセスできます

ふるさと石川の伸びゆく未来に尽力

さまざまな視点から一般質問しました！

令和4年2月議会

美川漁港の浚渫（しゅんせつ）について



美川漁港 航路ふさぐ

美川漁港（左上）から日本海への航路をふさぎ、堆積している土砂 ＝11日、白山市の手取川河口（小型無人機から）

電子版で空撮の動画掲載

手取川河口に「島」

出漁遅れる可能性

昨年浚渫1回だけ 原因は不明

美川漁港の浚渫早期に

横山隆也氏 自民

〈美川漁港〉手取川河口の浚渫状況は。3月中旬に出漁できるよう、浚渫（しゅんせつ）を担う白山市を支援してほしい。

石井農林水産部長 毎年、風浪が弱まる4月中旬をめどに浚渫を終えていると聞く。早期完了を目指す市を県としても風浪の情報提供などで支援したい。

農林水産部長

情報提供で白山市支援

〈白山国立公園〉指定60周年記念事業を県として行うべき。

藤村生活環境部長 管理者である国が実施に向けて具体的な内容を検討している。県も協力できるよう地元白山市や関係団体と相談の上、対応したい。

質問

美川漁港の浚渫の早期実施で漁船の安全な航路の確保を

美川漁港を利用する漁船は、一級河川の手取川河口を航路としている。しかし、毎春には、冬季の風浪などの影響により、航路に土砂が堆積している。漁業者のために浚渫を早期に完了することはできないか。

答弁

白山市では以前、3月下旬に浚渫を終えたことがあるが、再び土砂が堆積した経験から4月中旬をめどに浚渫を完了している。ただ、市としては、できる限り早く浚渫を終えるよう努力したいと考えており、県としても支援していきたい。また、市が浚渫を着実に実施できるよう、国に対して必要な予算の確保を働き掛けていく。

横山隆也 私の意見

漁業者にとって漁船が出せなければ仕事になりません。土砂の問題は、自然との闘いでもあるため、一朝一夕に解決するのは難しいと言えます。ただ、漁業者の利益を最優先に考えてほしいと思っています。

令和4年2月議会

県立音楽堂の駐車料金について

質問

開館20周年を機に駐車料金の割引制度を創設

県立音楽堂については、これまで地下駐車場の料金の妥当性が議論されてきた。利用者に対する地下駐車場の料金軽減について、これまでどのような検討をしてきたのか。また、今後はどのように取り組んでいくのか。

答弁

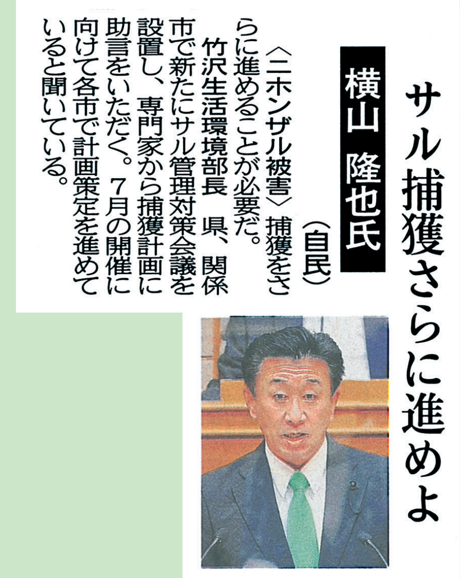
2時間の公演の場合、通常、駐車時間は4時間程度が想定され、利用者にとって1600円の駐車料金は負担となっていた。そのため、開館20周年を機に、新たに駐車料金の割引制度を創設することとした。有料公演を鑑賞する際の駐車料金について800円を上限とすることで、負担軽減を図った。

横山隆也 私の意見

金沢駅前という立地で、上限の設定を800円にしたことに対して評価したいと思います。駐車料金の負担が大きいと訴え続けてきましたので、今回の制度創設は感慨深いものがあります。

令和4年6月議会

ニホンザル管理計画の見直しについて



サル捕獲さらに進めよ

横山隆也氏（自民）

〈ニホンザル被害〉捕獲をさらに進めることが必要だ。

竹沢生活環境部長 県、関係市で新たにサル管理対策会議を設置し、専門家から捕獲計画に助言をいただく。7月の開催に向けて各市で計画策定を進めていると聞いている。

生活環境部長 新たに対策会議を設置

質問

深刻化するニホンザルの被害 新たにサル管理対策会議を設置

ニホンザルについては、金沢市の野田山や医王山周辺に北上し、白山市の白峰地区にまで南下するなど分布域が拡大している。群れを一網打尽にする「全頭捕獲」をさらに進めることが必要だ。

答弁

全頭捕獲は、捕獲用のおりを設置し、群れごと壊滅させるものだが、一部でも取り逃がすと、残ったニホンザルが新たな群れを形成し、かえって群れの増加や分布域の拡大につながる。そこで、県、関係市でサル管理対策会議を設置し、専門家から捕獲計画について助言をいただく。7月の開催に向けて各市で計画策定を進めている。

横山隆也 私の意見

野生鳥獣による全国の農作物被害額は200億円を超えています。中でもニホンザルの被害は深刻であり、農林業の従事者のみならず、生活を脅かす問題として、今後も取り組みを続けていきます。

皆さまの幸せを実現するために、
地域の活性化に全力で取り組んできました！

令和4年2月議会

JR駅の無人化対策について

質問

障害のある方への配慮を 美川駅のバリアフリー化検討

JR西日本金沢支社は、2030年度までに石川県内の12駅を無人化するとしている。美川駅をはじめ、バリアフリー化が必須と考えるがどうか。

答弁

障害のある方には、しっかり対応するよう働き掛けていく。美川駅を含めた利用者数3000人未満の駅のバリアフリー化については、国の財政支援の対象外となっている。美川駅は白山市の意向を踏まえて検討していきたい。

令和4年6月議会

就職支援協定について

質問

39の大学と就職支援協定 Uターン就職率の維持に効果

就職支援協定を結んでいる39の大学の在学生は、県外進学者の何％か。また、締結によって学生のUIターンに変化などの効果があったと評価できるか。

答弁

2021年5月1日現在、在籍している学生は3164人で県外進学者の26％にあたる。学生の売り手市場、大企業志向を考えれば、Uターン就職率は約6割を維持しているところであり、一定の効果は出ている。

令和4年2月議会

プレミアム・パスポートのデジタル化について

質問

プレミアム・パスポートが電子化 特典をスマートフォンで発信

紙のカードだったプレミアム・パスポートが電子化される。どのような形で利便性の向上を図るのか。また、いつから運用を始める予定なのか。

答弁

プレミアム・パスポートの電子化は、利用者や協賛企業からの声を受けたもので、スマートフォンで表示できるようにした。メリットとしてはパスポートを紛失する恐れがなく、特典などの情報が発信しやすくなることが挙げられる。年内をめどに運用を開始したい。

令和4年6月議会

公共施設のあり方について

質問

現庁舎の活用が適当 効率化や利便性で検討

公共施設の老朽化は避けられない。石川土木総合事務所、石川農林総合事務所について、将来的に集約、合築を検討してもよいのではないか。

答弁

両事務所については、庁舎機能に支障を生じておらず、当面は現庁舎を活用していくのが適当と考える。今後は、庁舎の老朽化の進行度合いなどを踏まえながら、行政の効率化や利用者の利便性を総合的に判断し、検討していく。

令和4年2月議会

難聴児相談支援センター設置について

質問

成長に応じた切れ目のない支援 関係機関などで新たに協議会設置

以前から公的機関の必要性を訴えてきたことから、難聴児相談支援センターが設置されることは大変喜ばしい。今後の難聴児支援の取り組みをうかがう。

答弁

難聴児支援は、乳幼児期に早期発見し、適切な療育を行うことが重要である。成長段階に応じた切れ目のない支援体制の整備に向けて、医療機関、市町、当事者団体などで構成する協議会を新たに設置する。

令和4年6月議会

白山下山仏などの文化財を活用した白山麓への観光誘客について

質問

下山仏などの文化資源を活用 積極的に旅行商品の開発を

白山に祀られていた仏像を地元住民が尽力して下山させた「下山仏」など、文化資源を活用した白山麓への誘客についてどのように考えているのか。

答弁

白山麓には、魅力的な文化・観光資源が豊富にあり、下山仏を組み込んだツアーも商品化されている。今後は、白山市と連携し、下山仏など地域の観光資源を最大限活用した旅行商品の開発に向けた取り組みを支援していきたい。

令和4年6月議会

白山ろく少年自然の家について

質問

イワナつかみなど体験 全てのトイレを洋式化

白山ろく少年自然の家では、どのようなプログラムを提供しているのか。また、施設の改修を検討する時期にきているのではないか。

答弁

夏場は渓流でのイワナつかみ、冬場はスキーなど自然を生かした体験のほか、野外炊飯、そば打ちもできる。老朽化は進んでいるが、必要な修繕・改修は行っており、来年度は全てのトイレの洋式化が完了する予定となっている。